

令和7年度

私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針について



認定こども園

四條畷学園大学附属幼稚園

目次

令和7年度 ヨコミネ式教育方針に寄せて	P.1
令和7年度 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針について	P.2
[要約] 令和7年度 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針について	P.6
手法・ヨコミネ式教育法への道	P.7
[要約] 手法・ヨコミネ式教育法への道	P.12

令和 7 年度 ヨコミネ式教育方針に寄せて

保護者の皆様におかれましては、日頃より当園の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和 7 年度、当園はヨコミネ式教育法の「原点回帰」をテーマに、幼児期における教育の基礎を改めて見直し、一人ひとりの子どもたちの可能性を最大限に引き出すことを目指します。

本年度は、平成 20 年 1 月のヨコミネ式教育法導入時より当園を指導し、当時非常に高いレベルの指導を行った吉武新教頭を、幼児活動研究会より教育指導責任者として招聘し、ヨコミネ式教育法をさらに強化いたします。吉武新教頭は、長年にわたりヨコミネ式教育法の指導に携わり、豊富な経験と深い知識を有しております。その指導のもと、子どもたちの「やる気」「頑張る力」「競争心と協調性」「学ぶ喜び」「生きる力」を育むことを目標に、5 つの柱を掲げ、職員一同、力を合わせて教育に取り組んでまいります。

特に、本年度は「実体験から学び得た先にある笑顔」を大切にしたいと考えております。子どもたちが自ら考え、行動し、達成感を味わうことで、学びの楽しさを知り、自信を深めていく。その過程を、私たち職員は温かく見守り、時には励まし、時には共に喜び、子どもたちの成長を支えてまいります。

また、小学校以降の学びを見据え、幼児期に培うべき基礎学力と社会性を育むことにも力を入れてまいります。子どもたちが小学校へスムーズに移行し、自信を持って学び続けることができるよう、吉武新教頭の指導のもと、職員一同、研鑽を重ねてまいります。

本冊子では、各目標の詳細と具体的な取り組みについてご紹介しております。ご一読いただき、当園の教育方針へのご理解を深めていただければ幸いです。

保護者の皆様と手を携え、子どもたちの健やかな成長を育んでいけますよう、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 4 月 1 日

認定こども園

四條畷学園大学附属幼稚園

園長 長谷 秀揮

令和7年4月1日

令和7年度 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針について

教頭 吉武寿一（教育指導責任者）

初めに

令和7年度のヨコミネ式教育法は『**原点回帰**』です。これは、基本が欠けているという意味ではなく、あらためて基礎を整え、その考え方をより深く見直し、一人ひとりの子どもに合った応用を、積み重ねていくことを目指すということです。

当園の保護者の皆様は、ヨコミネ式教育法を基盤にした教育・保育を行っていることをご承知の上でご入園いただいております。日々の教育時間には限りがあるため、すべてを包括することは難しい現状です。

そのため、限られた時間を最大限に活用し、効率よく子どもに適した方法を見つけることが重要です。この際に必要となるのが揺るぎない基礎です。この基礎がしっかりしているからこそ、子ども一人ひとりに応じた応用を柔軟に展開できるのです。

同じ取り組みを行っても、同じように成長するとは限らない子ども達です。そのため、当園では設定保育を**個別指導**に移行することで、人間形成において最も重要とされる幼児期を大切にしています。

結果も大切。過程も大切。出来た経験も出来ない経験も大切。楽しいや面白いだけとは違う、“実体験から学び得た先にある笑顔”も子ども達に伝えたい。

私たち自身の成長が子どもたちの成長につながることを意識しながら、令和7年度は以下の**5つの方針**を掲げ、全職員一丸となって取り組んでまいります。

●その1：引き出したいのは、その子のやる気！

ヨコミネ式教育法では、その子の**やる気**を引き出すために、**6つの環境**と**4つのスイッチ**を大切にしています。

6つの環境とは、

- ①その子ができる楽しいこと
- ②能力別指導
- ③個別指導
- ④説明はできるだけ短く

⑤できるだけ待たせず集中

⑥上手な子を手本、です。

やる気のスイッチとしては、

①競争

②真似

③ちょっとだけ難しいこと

④認める、といった要素があります。

これらを基軸にやる気を引き出しますが、基本だけではうまくいかないケースもあります。本当に嫌がっている場合は、「無理にさせない」という柔軟性も重要です。

そして、押し付けや強制にならないことを意識する必要もあります。応用編では、これらを場面に応じて四則計算をするように自在に活用しながらその子のやる気を引き出せる様にします。

●その2：授けたいのは、頑張る力！

まだ幼児期ではなく、すでに幼児期です。幼児期が人間形成で最も重要であると言われる一つの理由は、この3歳～6歳の時期が脳の急速な発達期であり、何でも吸収しやすい時期だからです。

初めての社会で親元を離れ、「できない！」や「分からない！」からのスタートとなることがほとんどです。幼児期の体験が小学校からの色々なすべきことに対しての“出来ない”や“分からない”の免疫がついている子とそうでない子では、どちらが躓きの少ない成長過程となるのでしょうか。

また、小学校が、幼稚園以上に子ども達一人ひとりを見てくれる場所ならまだしも、自立に向かっていく教育課程で頑張る力を授けるタイミングは、人生では幼児期であり、育む場所のご家庭より幼稚園という集団教育の現場と考えます。

例えば、逆立ち歩きができるようになるのは段階を追って積み上げた結果であり、体操の目標ではあっても教育の最終目的ではありません。

当園の教育目標は園だより「手法・ヨコミネ式教育法への道」4月号リニューアル編に記載しておりますので、ぜひご参照ください。

●その3：競争心と協調性のバランス

競争はあらゆる場面で存在します。同じことをしても結果が異なるのが自然なことであり、だからこそ順位や優劣が生まれます。ただし、それが人間としての価値を表すものではないことを伝えることも重要です。

それゆえ、**競争心とともに協調性**を育むことも大切にします。当園が、インクルーシブ保育の考え方をしているのにも色々な人がいることも認め、受け入れることが現代社会に必要な不可欠だからです。

例えば、かけっこで順位を決めることがあっても、結果だけに重点を置かず、過程や努力も同じように評価します。たとえば、「**遅くとも、最後まで一生懸命走ること**」がいかに重要かは、折をみて伝える様にしています。

出来ることや出来る子がスポットに当たることはありますが、それらの子だけにスポットを当て続けることもないことも同様です。そのために、昨日の保育と今日の保育、そして明日からの保育は繋がっています。

●その4：究極の目標は、出来ることより“大好き”になること

読み、書き、計算、音楽、体操の**究極の目標は、大好きになること**です。幼稚園を卒園した後も続けられるくらいに「大好き」と思えることを目指します。特に重要なのは、幼少期に「**できる**」という経験を重ねることが、「**大好き**」へのきっかけになるという点です。

小学校に入学の頃は、そんな子ども達にとって勉強は簡単なことになっているかもしれませんが、しかし、それでもよくある話なのですが、高学年のある日、気が付いた時には実は1、2年生で躓いていて勉強嫌いになってしまっていたということがなくなって欲しいと願います。

また、保護者の方が仕事でご自宅にいらっしゃらなくても宿題くらいは自分で出来ることも大切です。教育や習慣化で大切な年齢は、「**つ（～このつ）**」のつく年までと昔から言われています。

1、2年生の頃は学校の勉強が簡単すぎて面白くなければ、少し難しいドリルや本を買ってあげてください。**自宅で自学の習慣**がついていれば（ですから園でも「お家でもお願いします！」とお勧めしています）、きっとやってくれるでしょう。

そして、学べるということは、その子の一生の財産となることでしょうし、そうなって欲しいと願います。分からなければ調べれば良いし、興味があるものは、とことん調べてみれば良いと考えます。今の時代、環境は整っています。将来、何であれ、自分の好きな道を切り開く力を持って欲しい。

そのきっかけが、幼児期に保護者の方が数ある中から選んで頂いた当園での生活が少しでも影響していれば、こんな嬉しいことはありません。お子様をお預かりする期間は、幼児

期の間でしかありませんが、見つめるのはその子が卒園してからの姿、そしてその後の社会に出る姿です。

●その5：生きる力

大切な順番は、心の力～学ぶ力～体の力です。教育基本法や学習指導要領にもありますが、教育の現場には、知識や技術を学ぶということ以外に人として社会に出て適応出来る「豊かな人間形成」や「人格の形成」を育むという側面があります。

この目には見えにくい大切なことは、初めての社会で、初めての集団生活で、基礎基盤として身に着けることが幼児教育にも求められています。

これを少しでも理解するために、体や頭の視神経を刺激し、一番多くのことを吸収できるこの時期に、身をもって学ぶことは今の時代においても重要ではないでしょうか。

心の力、学ぶ力、体の力、総称して『生きる力』とでも言いましょうか。楽しい、嬉しいだけでは、真の自立心と自律心は育まれません。

最後に

私たちは、発展途上であることを自覚し、まだまだ成長したい気持ちも忘れずに、職員の立場は色々ありますが、皆で成長し続けられる子ども達の為の職場を目指します。

意見を出し合い、良いところを共有し、改善できることを改善し、失敗を出来るだけ繰り返さない様にして、人の細胞が常に新しくなるように、幼稚園という職場も古い体質のままにならないように心がけて参ります。

「光陰矢の如し」ではないですが、一日は子ども達にとっても私たちにとっても早いものです。子どもの成長のスピードに負けない様に頑張って参ります。まだまだ至らぬ点、気づかぬ点、不都合な点もございます。

しかし、保護者の皆様がお子様を見守る暖かさとは違った観点からも、共に同じお子様を見守り支え続けて参ります。

今後とも変わらぬご理解、ご協力、そして応援を賜りますようお願い申し上げます。

時間：10分8秒



♪令和7年度のヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針を、音声でもお聞きいただけるようになりました。ながら聴きや倍速再生など、ご都合に合わせてご活用ください。

令和7年4月1日

【要約】 令和7年度 私たちのヨコミネ式教育法の取り組みと5つの方針について

教頭 吉武寿一（教育指導責任者）

令和7年度、当園はヨコミネ式教育法の「原点回帰」をテーマに、幼児期における教育の基礎を固め、小学校以降の学びへと繋げることを目指します。限られた時間の中で効率的に子どもたちの成長を促すため、以下の5つの方針を掲げます。

1. やる気を引き出す

6つの環境（楽しいこと、能力別・個別指導、短い説明、集中できる環境、上手な子を手本）と4つのスイッチ（競争、模倣、少し難しい課題、承認）を活用し、子どもたちの学習意欲を高めます。

小学校での学習にも繋がる主体的な学びの姿勢を育みます。

2. 頑張る力を養う

幼児期の脳の発達に着目し、小学校以降の学習や社会生活に役立つ「頑張る力」を育成します。

成功体験と失敗体験を通して、困難に立ち向かう力を育み、小学校での学習における粘り強さへと繋がります。

3. 競争心と協調性のバランス

競争を通して能力を引き出しつつ、協調性と多様性を尊重する心を育みます。

集団生活を送る小学校において必要となる、他者と協調する力を養います。

4. 「大好き」を育む

読み書き、計算、音楽、体操などを通して、学びを「大好き」になることを目指します。

小学校での学習に対する興味関心を高め、主体的な学習態度を育成します。

5. 生きる力を育む

心の力、学ぶ力、体の力をバランスよく育み、社会で自立して生きていくための力を養います。

小学校以降の社会生活においても必要となる、豊かな人間性と社会性を育みます。

これらの目標を達成するために、職員一同、常に成長し続け、子どもたちの成長を支えていきます。

手法・ヨコミネ式教育法への道（園だより掲載済 その1～5）

教頭 吉武寿一（教育指導責任者）

【ピグマリオン効果】 + 【箸よく盤水を回す】

皆さんは「**ピグマリオン効果**」という言葉をご存知でしょうか？これは教師の期待によって学習者の成績が向上することで、心理学の世界では有名な理論です。伸びると思った子どもは必ず伸びる、という教師の心構えなどにもよく引用されます。

同時に、「この子はできない」「できるだろうか」「できないかもしれない」こんなふうに思われている子どもはできるようにならない（厳密には「なりにくい」）、ということでした。

進化を続ける横峯先生の園や、大きな成果を出している導入園の園長先生・職員の方々を見ると、まさに「**自分たちの園（クラス）の子どもたちは全員できる！**」と微塵も疑いをもっていないことにいつも驚かされます。

「**どの子どもでもできる**」。この気持ちは、小手先のノウハウなどよりも絶対に重要な要素です。例えば「あんな（横峯先生の園のように）凄いことが自分たちに（自分たちの園の子どもたちに）本当にできるのだろうか？」。

このような弱気を少しでも持っているうちは「100%」の高みまでの到達は決して実現しないでしょう。子ども達と自分自身を信じる、それも普通に信じるレベルではなく信じ抜く！

ヨコミネ式の成果実現は、まずここから始まるのではないか？と思えてなりません。今現在は子どもたちを100%できるようにさせたという実績など無くても、自分の力と子どもの可能性を、**信じて、信じて、信じ抜く**のです。そのための努力を毎日毎日続けるのです。

さて、皆さんは、イエローハットの創業者、鍵山秀三郎氏をご存知でしょうか。皆さんが環境整備をされている原点を築かれた方で、NPO 法人「日本を美しくする会」（「日本を美しくする会・掃除に学ぶ会」）の創唱者で相談役でもあります。その鍵山先生がある著書の中でこのようにおっしゃっています。

「**箸よく盤水を回す**」・・・盤水とはたらいの中の水のこと。これを箸一本で回しても、最初は箸しか回りません。ところが信じて根気よく回し続けておきますと、水全部が大きな渦になって回るようになります。あきらめずに回し続けること。最後は水全部が渦になると信じぬくこと。

大きな成果を生むための秘訣を突き詰めて言えば、結局はこのことしかありません。

基本（6つの環境・4つのスイッチ）を大切に、使いこなして最良の環境設定を考え続けていきましょう。今日は、昨日の続きです。明日は今日の続きが出来ます。そして毎日毎日の積み上げを、一分一秒を惜しむようにして続けていくのです。

きっとできます。皆さんの力を信じています。そして、皆さんの子ども達もまた。何故なら、子ども達は、天から与えられた才能を持って生まれた“天才”であり、皆さんはその天才を受け継ぐ方々なのですから！

【人生・仕事＝能力×熱意×考え方】

子どもの成長は、前に立つ先生の資質で大きく変わります。単なる教え方のスキルの問題だけでなく、人としての生き様も大きく関わります。本に書いてある様な事だけではなく、実際に自分の足で1000園以上の私立園に足を運び、その中で私が素晴らしいと思うと同時に、子ども達からも保護者の方々からも大変人気のあった先生方の共通点であり、しかもその方々は、経験の多い少ないは関係ないのです。

考えてみて下さい。愛する我が子の担任が選べたとします。方や経験豊富な先生で子どもの扱いは上手ですが、何か笑顔が少なく子どもが変なことをすると威圧する様な言葉や大きな声を出す先生。

方や、例えば新人の先生ですが、笑顔一杯で何でも一生懸命に頑張っていて子どもの良いこと、頑張っていることをメチャメチャ褒めてくれる先生。どちらの先生が多くの保護者の方や子ども達に選ばれると思いますか？・・・と、言うことです。

新人の時は、誰でも思うものです。良い先生になりたい！子ども達や保護者に好かれる先生になりたい！つまり『成長したい！』という思いが強いのです。私たちの仕事は、それを私もあなたも忘れてはならない、成長を止めてはならない仕事なのです。その成長をすにあたっての大切なことが下記です。

【人生・仕事＝能力×熱意×考え方】

【能力】は、少～無限で人それぞれ。【熱意】も、少～無限で人それぞれ。

しかし、【考え方】は、マイナス～プラスまであり、マイナスになるといくら能力があっても熱意があってもマイナスになります。そうならない様な考え方を、仕事を通して身に付けるのです。

例えば、目の前の子どもが〇〇を出来る様にならない時、「これではダメなんだよ！」と教えてくれている。（後輩・部下育成も同じ）これを**どうすれば出来る様になるかと考える**ことで、また一つ自分の成長に繋がります。

この子は私を成長させてくれる為に、ここで出会う様になっていたのだ！この子は、私に口では上手く伝えられないが、「出来る様にして！」と助けを求めている、と。

「この子は、出来ない！」と決めつけるのは最も安易で楽な逃げ方で、先生というプロでなくても出来ることです。仕事を通してどんなことにも考え方をプラスに持てる様になり、人としても先生としても、子ども達のためにも成長を続けて欲しいと願います。

そして、そんな先生方に心から祈ります。仕事も人生も豊かなものにして欲しいと！

【「知っている」と「出来た」ではダメ！な理由】

子ども達に授けたいのは、やるべきことに対して経験をしたということではないのです。昔ならそれで良いのかもしれませんが、今は時間の流れのスピードが違います。物事が早く進むということです。

それは、やるべきことが多くなったことでもあります。躓いたりした時も振り返る余裕が昔ほどないことから言えることでしょう。小学校へ行った時、学校の先生が勉強でも各個人の生活習慣や躰に関することでも、一つひとつ見て頂ける時間があるのであれば、幼児期の間はゆっくりと自由に「経験した」で済むのかもしれませんが。

私たちが、子ども達に授けたいのは、伝えたことが「知っている」ではなく『理解する！』、「出来た」ではなく『身に付ける！』、のレベルなのです。そして、一つ上の段階（小学校）に行った時に、振り返ったり、やり直したりして立ち止まったりせず、そのままその上の新しいことや、高みへ繋げて欲しいと願っています。

更に言えば、全ての子ども達が、誰一人欠けることなく、幼稚園時代の輝きを持って成長し続けて欲しいのです。

例えば、元気や勇気はいつ出して欲しいのか。通常は、普通で良いのです。ただ、自分が困ったり、失敗したりした時にやり直す時や、そんな仲間が目の前にいた時に、手を差し伸べたり声をかけたり出来る勇気や元気を持ってもらいたいので、少し難しい話もしません。

しかし、それを理解する頭が育っていなければ伝わらないのです。その頭（心）を育てるために「知っている」や「出来た」ではダメで、毎日毎日読み、書き、計算、体操の繰り返しで体の色々な神経を刺激しているのです。たった、3年間しかありませんから！

『幼児期は、人間形成で最も大切な時期！』これは今も昔も何ら変わりはありません。

目の前の子ども達が、未来の私たち、自分達の地域や日本を良くしていくのです。一人ひとりの個性を大切に、多様な生き方が出来る様に、そして自分や自分以外の人も大切に出来る、そんな大人に成長して貰いたいと心から願っている私たちです。

教職員皆で、更に子ども達の未来のことを考えていきます！

【成功体験と失敗体験は、バランスが大切！】

子ども達の人生はこれからです。初めての社会である幼稚園に親元を離れて行くようになり、色々な経験をしていきます。当然初めてのことが多いので、最初は上手くいかないことや失敗も少なくないでしょう。

例えば、我が子が目の前で失敗して泣いたりしたら、多くのご家庭での対応は、直ぐに代わりにやってあげることが多いのではないのでしょうか。「そのうち出来る様になるから、今は・・・」の様な理由で。

私たちは、子どもが出来なくて、しかも泣いているのを見かけたら「超ラッキー！」と思う様にしています。(同情や心配はしておりますので、ご安心下さいね。) 勿論、失敗をわざとさせる様な事はしませんし、失敗するかしないかは各子どもそれぞれです。

そんな中、自分が思ってもみないことで失敗をしてしまうことや、自分だけが出来ずに恥ずかしさや口惜しさがあるからこそ泣いてしまう、そのシーンが私たちにとっては美味すぎるのです(笑)

大切なのは、上手くいかなかった時の『その後の行動！』です。高ぶった気持ちを落ち着かせ、その失敗したことに対してどうしたいのかを考えさせて、「**もう1回頑張る！**」という方向に導ける大チャンスなのです。

しない！という選択肢もあります。どちらでも、その時は尊重します。しかし、本当は出来る様になりたいのです。何故なら、周囲の子ども達は皆、頑張っている様になっていくからです。これが、集団行動の良さの一つです。

幼児期の失敗は、いくらでも周囲がフォロー出来ます。しかし、これから学年が上がり大きくなっていくほど、最終的に自分で決めなければならないことが多くなります。その時までに失敗にも慣れ、「そんなことは大したことではない！やり直し、繰り返すことが大切なのだ！」と思うことが出来る経験値がものをいう時が、これからのその子の人生に少なからずあると思うからです。

故に、幼児期の今だからこそ、成功と失敗、双方がバランスよく体験できることが大切と考えています。また、良いことばかりでなく上手くいかないことも体験して、双方の気持ちが分かるからこそ、相手の気持ちを理解することが出来ることもあるのです。私たちは全ての子ども達に、そんな素敵な人に成長して欲しいと願います！

【タイトルのネーミングにも理由がある！】

今回は、このコーナーのタイトルでもある「手法・ヨコミネ式教育法への道」についてのタイトル命名について、ヨコミネ式教育法導入をご承知の上で入園を決めて頂いた保護者の皆様にも改めてお伝えさせて頂きたいと考えて掲載を決めました。

「ヨコミネ式教育法」は、世の中の様々な情報の中では賛否両論色々ある様ですが、**私たちは、信念を持って取り組んでいます。**では、何故あえてタイトルに「手法」という文字をいれているのか。それは、当園が、私立（わたくしりつ）の幼稚園だからです。

さて、私立とは、私（わたくし）という設立者が私財を投じて立ち上げたものです。立ち上げた理由が建学の精神であり、どの様な教育が大切で、当園ではこの様な教育の理念と方針を掲げて子ども達の健やかなる成長を願っています、とあります。

これは、私立園であれば、どの園にもあり、同じ様な内容もありますが、一字一句違うその園だけの独自の内容となるわけで、その園の方々は非常に大切にしています。

当園の建学の精神は、「報恩感謝」です。それを胸に、教育理念の「人をつくる」為に、教育方針の・個性の尊重・明朗と自主・実行から学べ・礼儀と品性の4つを目指すための「手法」としてヨコミネ式教育法を取り入れているということです。
（*ここでは、詳細説明は割愛させていただきますが、宜しければ園のHPをご覧ください。）

子ども達の成長にとって大切なのは、何も読み書き計算体操音楽だけではありません。しかし、ヨコミネ式教育法を取り入れている園では、普通の園の子ども達では体験出来ないことが出来る様になっていきます。

出来るようになることは、出来ないけど似た様な事をしているのと似て非なるものです。ましてや、実際の横峯先生の園の子ども達は、どの子ども達も目を輝かせて喜んで取り組んでおり、やらせや、出来ない子など一切いませんでした。

それは、「百聞は一見に如かず」を実体験で学ばせて頂いた瞬間でした。子ども達の成長の為に良いものは素直に取り入れて、何としてでも目の前の子ども達を人間形成の一番大切な幼児期に、手法・ヨコミネ式教育法を通して今の時代に必要な学園の建学の精神、教育理念、教育方針を追求して子ども達に伝えていきたい！

私たち教職員は、その様に考え、当園独自の特化した教育を目指して子ども達の成長をこれからも願い続けて実践いたします。

しかし、**まだまだ足りない！ 昨日より今日！ 今日より明日！**
その気持ちを職員全員で持ち続けて、これからも邁進して参ります！

【要約】 手法・ヨコミネ式教育法への道（園だより掲載済 その1～5）

教頭 吉武寿一（教育指導責任者）

ヨコミネ式教育法への情熱：子どもたちの無限の可能性を信じて

私は、ヨコミネ式教育法を通して、子どもたちの無限の可能性を最大限に引き出したいと強く願っています。**ピグマリオン効果**と「**箸よく盤水を回す**」の教えを胸に、子どもたち一人ひとりの能力を信じ抜き、根気強く指導することで、彼らが自らの可能性を開花させることを確信しています。

子どもたちの成長を支える：教師としての使命

私は、「人生・仕事＝能力×熱意×考え方」という言葉を深く心に刻んでいます。子どもたちの成長には、教師の能力だけでなく、熱意と肯定的な考え方が不可欠です。常に前向きな姿勢で子どもたちと向き合い、彼らの成長を全力でサポートすることが、私の使命だと考えています。

ヨコミネ式教育法の実践：子どもたちの未来を拓く

私は、ヨコミネ式教育法を単なる知識の伝達ではなく、子どもたちが自ら学び、考え、行動できる力を養うための実践的な手法として捉えています。小学校以降の学習や生活で困難に直面した際に、自ら解決できる力を身につけることを目標とし、日々の教育活動に取り組んでいます。

成功と失敗の経験：困難を乗り越える力を育む

幼児期における失敗は、その後の成長において貴重な経験となります。私は、子どもたちが失敗から立ち直り、再び挑戦する力を育むことを重視しています。成功と失敗のバランスがとれた体験を通して、子どもたちが相手の気持ちを理解し、思いやりのある人に成長するこ

とを願っています。

園独自の教育：ヨコミネ式教育法を「手法」として導入

私は、当園の建学の精神や教育理念を実現するための手段として、ヨコミネ式教育法を導入しました。読み書き、計算、体操、音楽など、多様な活動を通して、子どもたちの能力を開発し、可能性を広げることを目指しています。ヨコミネ式教育法を通して、子どもたちの成長に必要なことを追求し、伝えていきたいと考えています。

保護者の皆様との連携：共に子どもの成長を支えるパートナーとして

私は、子どもたちの未来を共に考え、支えたいと強く願っています。保護者の皆様と連携し、子どもたちの成長を喜び、支え合うパートナーシップを築きたいと考えています。

私は、ヨコミネ式教育法を通して、子どもたちの可能性を最大限に引き出し、未来を生き抜く力を育むために、全力を尽くします。

